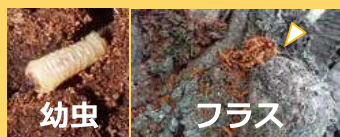


4 クビアカツヤカミキリの生活環と防除のタイミング

幼虫は樹木内部で1～3年生活し、食べかすと糞をフラスとして樹木外に排出します。



6月～8月にかけて羽化し、交尾・産卵します。

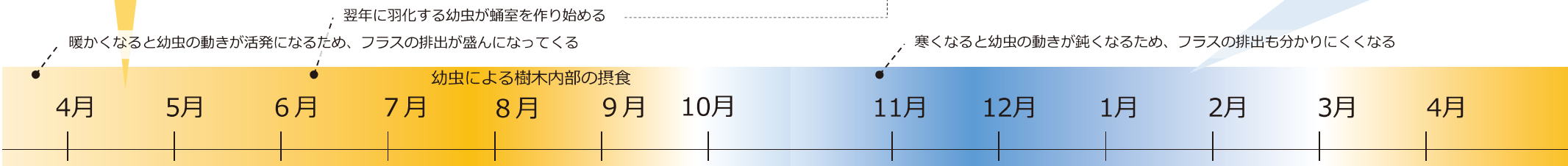


成虫発生時期

大きくなった幼虫は蛹室を作り越冬し、翌年に羽化します。蛹室内には薬剤が届かないため、蛹室内の虫を薬剤で駆除することはできません。



木質部に入り込んだ多数の幼虫。
(画像提供 森林総合研究所)



フラス排出孔に薬剤を注入する

フラスの排出を見つけたら、孔に注入するようにしましょう。
[防除方法詳細は P10]



樹幹に孔を開けて薬剤を注入する

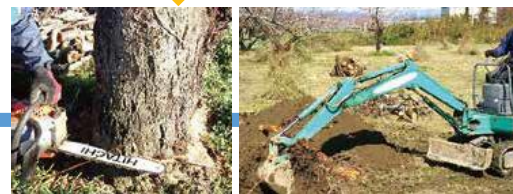
樹木の水分の吸い上げが旺盛な時期、特に、幼虫が蛹室を作る前（5月）に処理すると効果的です。
[防除方法詳細は P11～13]



蛹室：幼虫が蛹になるために作る小部屋。幼虫は蛹室の作成後、羽化まで蛹室内で過ごす。

フラス排出孔に薬剤を注入する

薬剤によっては、樹幹に孔を開けて薬剤の注入が可能
[P13 参照]



被害木の伐採とその処分・切り株の処分

寒くなってくると、幼虫の活動は低下し、成虫の羽化もなくなります。
伐倒・抜根処分は9月～翌年4月までに行いましょう。 [防除方法詳細は P6～9]

伐倒した被害木等は、**放置せず、速やかに処分**しましょう。
伐倒した被害木等を運搬する際は、事前に市町に連絡するとともに**逸出防止措置**（虫が逃げ出さないようにする措置）が必要です。

薬剤を散布する

成虫の発生ピーク（6月末）を中心に、6～7月にかけて複数回散布しましょう。
[防除方法詳細は P13]



ネット巻き・捕殺

成虫発生時期（6月～8月）に合わせ、ネットを巻くことで、成虫の飛散や、産卵を防止しましょう。
[防除方法詳細は P14]

⚠️ この時期の伐倒・抜根処分は避けましょう。

参考 栃木県のもも園における生活環（2年1化）

